

2006年6月15日

「全室ダブル脱臭」の採用により、脱臭能力を従来の約30倍に(*1)向上
大容量冷蔵庫「クリーンスペシャル 冷凍鮮科 DX (デラックス)」を発売
「全室抗菌加工」やドア面のフッ素コーティングも併せて採用し、清潔・衛生機能を充実

日立アプライアンス株式会社(取締役社長:石津 尚澄)は、脱臭能力を従来機種約30倍に向上させるとともに、庫内全室に抗菌加工や、ドア面にフッ素コーティングを施すことなどで、清潔・衛生機能を大幅に高めた大容量冷蔵庫「クリーンスペシャル 冷凍鮮科 DX (デラックス)」R-V5400を「冷凍鮮科」シリーズの最上位機種として、7月1日より発売します。

本製品では、「冷凍鮮科」R-SF54VM(535L)で好評を得ている冷凍機能、業界最大(*2)の冷凍容量はそのままに、清潔・衛生機能を充実させました。新たに採用した「全室ダブル脱臭」では、業界で初めて(*3)、冷蔵室の背面と底面、さらには、冷凍室、製氷室、野菜室それぞれの引き出しケースまで、庫内全室に脱臭加工を施し、加えて、においを分解する「大型ナノチタン脱臭ユニット」を冷気の通路に配置しました。両方の効果により、冷蔵庫全体の脱臭能力を従来機種約30倍に向上させ、食品へのにおい移りを防ぎます。一方、庫内のすべての棚、ポケット、引き出しケースには抗菌加工を施し、また冷凍室には抗菌ステンレスも採用し、雑菌の活動を抑えます。さらに、ドア面は、当社独自の「3層構造フッ素コーティング」とし、油汚れなども簡単に落とせるので、購入時のきれいな状態を長く保つことができるなど、清潔で、衛生的に使用できます。

また、今回、自動製氷時の氷の落下音を軽減する新開発の防音シートや、冷凍室の引き出しケースに、開くときに働く衝撃防止ストッパーも新たに搭載し、「サイレント構造」としました。

なお、昨年11月から発売している「冷凍鮮科」シリーズの主な特長である、「真ん中冷凍室」や、冷凍食品の高さに合わせた3段式フリーザーケース、「ナノモイスター冷凍」については、本製品でも引き続き採用しています。

デザインについては、高品質で、耐久性の高い仕上げとしました。ドア面には、光沢度が高いダークブラウン色のカラーステンレス鋼板を使用しました。また、冷蔵室のハンドルは、木目調の柄とし、素材感を表現しました。引き出しハンドルには、「硬質UVコーティング」を採用することで、光沢を向上させるとともに、傷付きを防ぎ、耐久性を向上させました。

(*1) 2004年の冷蔵庫R-KF50SPAMとの脱臭能力比較。

(*2) 2006年6月15日現在。日本国内メーカーが販売している家庭用冷蔵庫において。

(*3) 2006年6月15日現在。家庭用冷蔵庫において。

型式および発売日

型式	定格内容積	本体希望小売価格	発売日	月産台数
R-V5400	535L	オープン価格	7月1日	2,500台

需要動向および開発の背景

2006年度の家庭用冷蔵庫の市場は、約460万台(前年比約101%)と堅調な需要が見込まれています。その中で、500L以上のクラスの需要は、前年比200%以上に拡大しています。(日立調べ)

こうした環境下、お客様に対する当社調査では、冷蔵庫の大型化が進む中、収納する食品も多様化していることから、食品同士のにおい移りを気にし、購入時に脱臭機能を重視していることが分かりました。また、近年のオープンキッチンの増加に伴い、冷蔵庫の汚れやデザインを気にするお客様も増えています。

本製品は、こうしたお客様のニーズに対応し、主に品質感にこだわりを持つ団塊の世代をターゲットに開発しました。

主な仕様

形式		R-V5400
定格内容積	合計	535L
	冷蔵室	273L
	冷凍室	163L
	野菜室	99L
外形寸法（幅×高さ×奥行）		740mm×1819mm×675mm
質量		95kg
年間消費電力量		690kWh/年
形態		冷凍室真ん中タイプ
外装	ドア面	3層フッ素構造（全ドア）
	操作パネル （冷蔵室ハンドル）	木目調パネル（シカモア柄）
	引き出しハンドル	硬質UVコート
全室 ダブル脱臭	脱臭装置	大型ナノチタン脱臭
	冷蔵室脱臭加工	（背面パネル、底面部品）
	冷凍室脱臭加工	（引き出しケース）
	製氷室脱臭加工	（引き出しケース）
	野菜室脱臭加工	（引き出しケース）
抗菌	冷凍室トレイ	抗菌ステンレストレイ（最下段のみ）
	樹脂部品	庫内のすべての棚、ポケット、引き出しケースに抗菌加工
サイレント構造		氷落下音防音シート、引き出しケース衝撃防止構造
ナノモイスター冷凍		（冷凍やけ防止カセット）
セレクト製氷		（氷の大きさが4段階に選択可能）
自動製氷機		（外せる製氷皿&給水パイプ・浄水機能・製氷おそうじ機能付き）
冷却システム		PAM制御+高効率圧縮機
外装色		ステンレスダークブラウン（ST）

取り扱い事業部・照会先

日立アプライアンス株式会社 家電事業企画本部 事業企画部
 〒105-8410 東京都港区西新橋二丁目15番12号（日立愛宕別館）
 電話 / （03）3502-2111（代表）〔担当：田中良樹〕

お客様からの問い合わせ先

お客様相談センター 電話 / 0120-3121-11

冷蔵庫ホームページ

<http://kadenfan.hitachi.co.jp/rei/index.html>

以上

(添付資料)

【大容量冷蔵庫「クリーンスペシャル 冷凍鮮科 DX(デラックス)」R-V5400の
主な特長】

1. 「全室ダブル脱臭」の採用により、脱臭能力を従来機種約30倍(*1)に向上

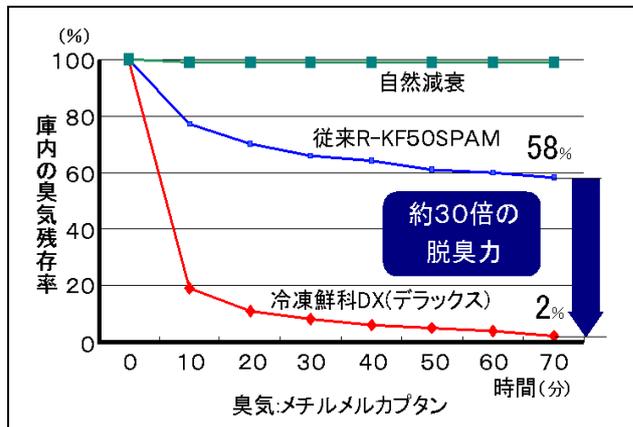
次の2つの技術の相乗効果により、冷蔵庫全体の脱臭能力を約30倍(図1)と大幅に向上させました。

「大型ナノチタン脱臭ユニット」

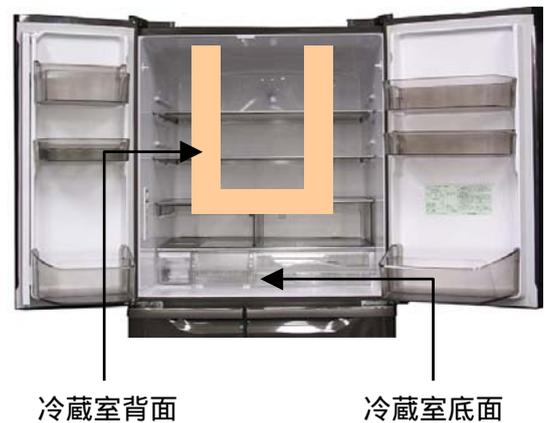
「大型ナノチタン脱臭ユニット」は、冷蔵庫内の全室に冷気を送り込む通路に、ハニカム(蜂の巣)形状のナノチタン触媒を配置したもので、においの分解力を向上させました。さらに、同ユニット内の「ナノカーボン」で、においの吸着力を高めました。特に、冷蔵庫内に多いにおいの成分「イオウ系臭」と、「アンモニア系臭」を強力に低減します。

業界初(*2)冷蔵庫内「全室脱臭加工」

冷蔵室では背面と底面に(図2) 冷凍室、製氷室、野菜室では、それぞれの引き出し本体ケースの樹脂に脱臭剤を配合する加工を施し、脱臭力を向上させました。



[図1 脱臭比較]



[図2 冷蔵室脱臭加工]

(*1) 2004年の冷蔵庫R-KF50SPAMとの脱臭能力比較。

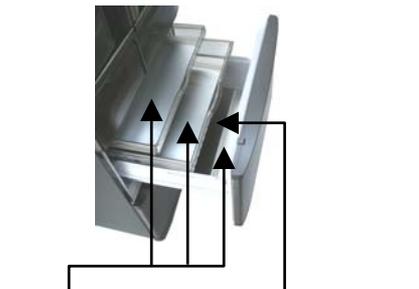
(*2) 2006年6月15日現在。家庭用冷蔵庫において。

2. 「全室抗菌」(庫内のポケット、棚、引き出しケースをすべて抗菌処理)で清潔・衛生的

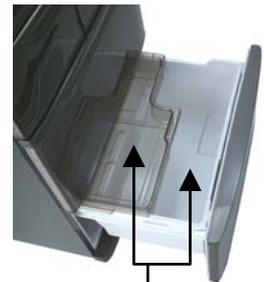
冷蔵室(図3)では、すべての棚とポケットを、また、冷凍室(図4) 製氷室、野菜室(図5)ではすべての引き出しケースに抗菌処理を施すとともに、「抗菌ステンレストレイ」を冷凍室の最下段に採用しました。雑菌の活動を抑え、清潔かつ衛生的に冷蔵庫を使用できます。



全棚、全ポケット抗菌加工
[図3 冷蔵室抗菌加工]



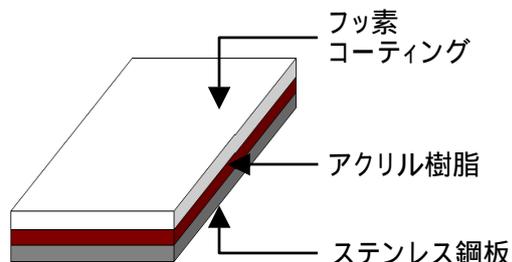
抗菌加工 抗菌ステンレストレイ
[図4 冷凍室抗菌加工]



抗菌加工
[図5 野菜室抗菌加工]

3. ドア面に日立独自の「3層構造フッ素コーティング」を採用

ステンレス鋼板にダークブラウン色のアクリル樹脂を重ね、その上にフッ素をコーティングした当社独自の「3層構造フッ素コーティング」(図6)は、表面に油などの汚れを付きにくくします。また汚れが付いても拭いて落としやすい(図7)ため、購入時のきれいな状態を長く保つことができます。



[図6 3層構造フッ素コーティング]



フッ素コーティングあり



フッ素コーティングなし

(食用油をたらした場合)

[図7 フッ素コーティングの効果]

4. サイレント構造

自動製氷の氷の落下音を軽減するため、製氷室の底部に、樹脂の硬度を下げ、裏面に凸形状を多数設けることで防音性を高めた防音シートを新採用しました。また、冷凍室の引き出し中段ケースには、衝撃防止ストッパーを設け、ケースをフルに引き出したときの音を抑えました。

5. 外観の高品質デザイン

デザインについては、高品質で、耐久性の高い仕上げとしました。(図8)ドア面には、フッ素コーティングにより深みを増した、光沢度の高いダークブラウン色のカラーステンレス鋼板を使用しました。また、冷蔵室のハンドルは、木目調(高級木材シカモア柄)とし、素材感を表現しました。引き出しハンドルには、「硬質 UV コーティング」を採用することで、光沢を向上させるとともに、傷付きを防ぎ、耐久性を向上させました。



硬質 UV コーティングハンドル

[図8 冷蔵庫外観]

6. 環境への配慮

冷媒は R600a (イソブタン) を採用し、従来から採用している断熱材発泡剤シクロペンタンと合わせ、地球温暖化の影響が極めて小さいノンフロン冷蔵庫としました。また、年間消費電力量を、690kWh/年(*3)に抑えました。使用する原材料が及ぼす環境への影響を低減するため、電子制御基板や冷凍サイクルなどへの無鉛はんだの採用、六価クロムを含まない電気めっき鋼板やネジを採用し、EU の RoHS 指令(*4)に対応しており、J-Moss(*5)に基づいてグリーンマークを表示しています。また、質量は、従来機種(*6)より約 6kg 軽量化し、省資源化、搬送性向上を図りました。

(*3) 2006 年新測定法 (JIS C 9801:2006 年) に基づき測定。

(*4) Restriction of Use of Certain Hazardous Substances in Electrical Equipment の略。欧州連合 (EU) 域内で取り扱う電気・電子機器製品を対象に実施する有害物質規制のこと。2006 年 7 月以降、鉛・水銀・カドミウム・六価クロム・PBB (ポリブロモビフェニル)・PBDE (ポリブロモジフェニルエーテル) の 6 物質の使用が制限されます。

(*5) 日本工業規格 (JIS C 0950:2005) 「電気・電子機器の特定の化学物質の含有表示方法」。

(*6) 2005 年の冷蔵庫 R-SF50TAPAM との比較。

ご参考

大容量冷蔵庫「クリーンスペシャル 冷凍鮮科 DX (デラックス)」R-V5400 の基本仕様・機能

本製品では、現行の「冷凍鮮科」R-SF54VM の基本仕様や基本機能を引き続き採用しました。

1. 業界最大(*1)の冷凍容量 163L でたっぷり収納

冷凍室を真ん中に配置し、日立独自の真空断熱材や小型コンプレッサーの採用により、冷凍室の大容量化を行い、業界最大の冷凍容量 163L を実現しました。これにより、冷凍食品のまとめ買いにも対応し、たっぷりと収納できます。

2. かがまずに使える「真ん中冷凍室」

当社の調査にて扉の開閉頻度を調査したところ、ドアの開閉頻度が多い部屋の順序は、冷蔵室、冷凍室、野菜室でした。この調査データより、冷蔵庫の部屋レイアウトを上側から頻度の多い順に配置し、冷凍室は使いやすい真ん中にすることで、かがまず使うことができ、ひざや腰への負担を抑えます。

3. 使いやすい3段フリーザーケース

冷凍室に収納している食品は不定形なものが多く、立てたり重ねたり収納方法は様々です。これらをすっきり整理するため、冷凍食品の高さに合わせた上中下の3段式フリーザーケースを採用しました。これにより、食品の積み重ねによる収納忘れも抑え、整理が格段にしやすくなりました。

4. 「ナノモイスター冷凍」で冷凍やけを防止

冷凍保存について不満が多い「冷凍やけ」(食品が乾燥することにより、変色してパサパサした食感になる現象)に対応するため、圧接着加工した機能性アクリル繊維を内蔵した「冷凍やけ防止カセット」を採用し、低温時でもすばやくナノサイズの水で放吸湿を行います。ドアを開けたときなど庫内が高湿度時には吸湿し、低湿度時には放湿することで、食品の水分を従来(*2)の約3倍保持して冷凍やけを抑えることができるようになりました。

5. 氷の大きさが選べる「セレクト製氷」

氷の用途に対するニーズは、飲み物に入れたり、調理に使用したり、水筒に入れるなど、多様化しています。そのニーズに対応するため、「セレクト製氷」機能を採用しました。必要に応じて2種類の製氷皿(それぞれ水量を2段階に可変)を使い分けることで、4種類の氷の大きさを選べます。製氷皿は外して洗えるほか、外せる給水パイプも採用し、自動製氷の衛生面にも配慮しました。

6. 本体は495Lサイズのままで定格内容積は40Lアップ(*2)

冷凍室を真ん中に配置し、冷蔵庫の真空断熱材を含めた断熱材を薄型設計することで、当社従来機種と比較して、本体をほぼ同じサイズのまま、内容積を40Lアップしました。これにより、据付性を変えずに収納量を大きくでき、様々な食品のまとめ買いに対応しました。

(*1) 2006年6月15日現在。日本国内メーカーが販売している家庭用冷蔵庫において。

(*2) 2005年の冷蔵庫R-SF50TAPAMとの比較。

以上

このニュースリリース記載の情報(製品価格、製品仕様、サービスの内容、発売日、お問い合わせ先、URL 等)は、発表日現在の情報です。予告なしに変更され、検索日と情報が異なる可能性もありますので、あらかじめご了承ください。
